

経営比較分析表（平成29年度決算）

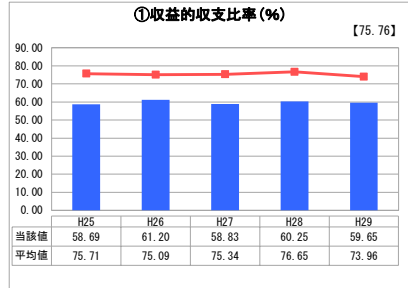
高知県 四万十市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	19.47	2,345	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
34,430	632.29	54.45
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,644	134.70	49.32

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



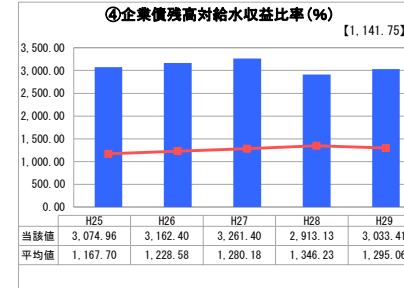
「単年度の収支」



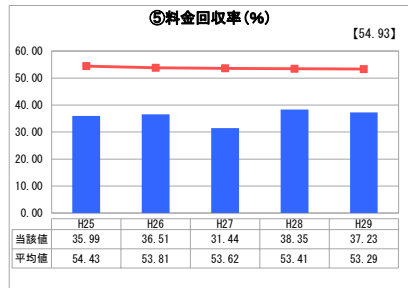
「累積欠損」



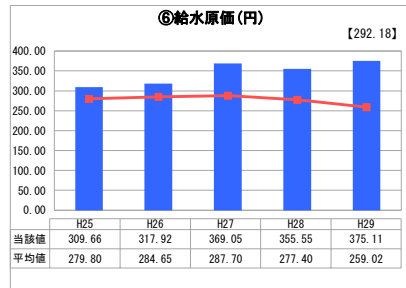
「支払能力」



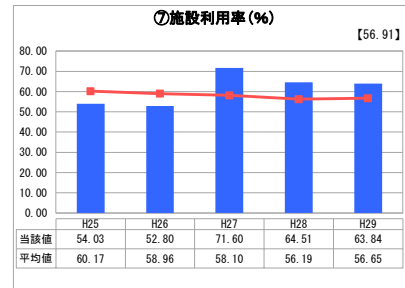
「債務残高」



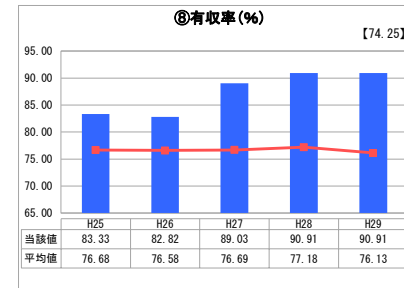
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

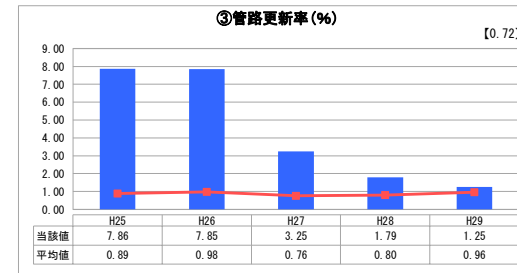
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
毎年、60%程度で推移しており赤字経営が続いている状況にある。

④企業債残高対給水収益比率
類似団体と比較し企業債残高比率は高い状況である。平成28年度は料金改定を行ったため、残高比率が減少したが、継続的な施設整備により平成29年度には増加している。

⑤料金回収率
類似団体と比較しても下回っており、37%程度である。給水に係る費用を、一般会計繰入金や地方債で賄っている。

⑥給水原価
類似団体と比較すると毎年高価で推移しており、平成29年度は上昇している。維持管理経費削減の検討が必要。

⑦施設利用率
類似団体と比較し施設利用率は、施設統合整備等により平成27年度より平均を上回っている。しかし毎年配水量が減少傾向にあると考えられる為、施設の適正規模を検討していく必要があると考えられる。

⑧有収率
類似団体と比較し有収率は上回っている。このままの有収率を保っていききたい。

2. 老朽化の状況について

③管路更新率
近年、未普及地域解消事業を主体に実施していることから、管路更新率は類似団体と同等程度まで下がってきている。法定耐用年数を超えた老朽管の割合が増え続けている為、計画的に更新を実施していく必要がある。

全体総括

施設整備事業は計画的に実施しているが、人口減少に伴う有収水量の減少により給水収益も減少傾向にあり、必要な事業費は企業債で賄っている状況が続いている。経営健全化に向けて、平成28年度に水道料金の基本料金と超過料金を一律20%増額する改定を行った。今後は過度に企業債に依存することなく、維持管理費等の削減に努めながら、収益の動向を見極め、優先順位をつけながら適正な時期に更新等の事業を進めていきたい。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。